

## The 12th IAGG Master Class on Ageing in Asia に参加して

松本 昇也

(日老医誌 2025 ; 62 : 112-113)

2024年5月22日午後から24日午前まで、The 12th IAGG Master Class on Ageing in Asia が東京大学で行われました。COVID-19のために5年ぶりのMaster Classで、2013年以來の日本国内での開催でした。私は東京大学医学部附属病院老年病科で老年科医として勤務しており、よく知っている場所でした。参加者は44人で、日本、韓国、中国、台湾、香港、シンガポール、タイ、マレーシア、インド、ネパール、インドネシアと様々な地域から参加されていました。参加者は老年科医が中心ですが、医師以外の参加者もいました。

テーマは Geriatric Syndrome で、講義のセッションでは、転倒、せん妄、サルコペニア、フレイル、認知症、抑うつ、低栄養、ポリファーマシーについて、30分ずつの講義を全員で受けました。グループ別のセッションでは、5グループに分かれて、ケースディスカッションや、参加者が行っている研究内容についての発表を行いました。ケースディスカッションでは、診断・処方についてはどこの地域でもおおむね共通ですが、地域や病院によって医療・看護の制度は特有であることを実感しました。研究発表で各参加者の研究を聞いて、研究に対する刺激も受けました。海外の人の英語を聞き取るのは難しく、英語で話すのも慣れていませんでしたが、それだけに良い経験であったと思います。

1日目の夕食は参加者と講師全体で、医学部教育研究棟のレストランで立食でした。2日目の夕食はグループごとにTutorの先生と、近隣のレストランでの食事でした。私のグループのTutorは大阪大学の山本浩一先生、台湾のLi-Ning Peng先生、Sub Tutorは東京大学の小島太郎先生でした。小島先生の計らいで、2日目の夕食の後はカラオケまで連れて行っていただきました。

海外の老年科医もみな優しい人ばかりでした。来年以



降はしばらく海外での開催かと思いますが、対象の老年医学会会員の皆様には、来年以降のMaster Classにぜひ参加いただきたく存じます。今年の第66回日本老年

医学会学術集会では、今回の Master Class の Tutor の先生方も交えて、英語でのケースディスカッションのセッションがありましたので、次回以降もセッションが

あればそちらも多くの方々に参加いただきたいと思います。開催に尽力いただきお世話になりました IAGG および日本老年医学会の皆様には感謝申し上げます。